

コレクション ♪リコレクション VOL. 2 色彩のラプソディー

2013年7月27日(土) - 12月15日(日)



エーリヒ・ブラウアー 《ソロモンの箴言より》1970-71年
〈傲慢の行く先には破滅がある。尊大な心を持たば転落する。〉
© Erich Brauer

年間を3期に分け、全館において当館の収蔵品をご紹介します「コレクション ♪リコレクション」の第2弾では、これまで展示される機会の少なかった作品も取上げながら、3つの企画展を同時開催いたします。当館でしか出会えないラインナップと、それぞれの空間に流れる時間を、庭園の四季風景とともに楽しみください。

開館時間 9:30-17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜(ただし9/16、9/23、10/14、11/4は開館)、9/17、9/24、10/15、11/5

入館料 一般900円(800円)／学生・65歳以上700円(600円)／小中学生・高校生500円(400円)
※()内は20名以上の団体料金

会場 DIC川村記念美術館(千葉県佐倉市坂戸631番地)

URL kawamura-museum.dic.co.jp

主催 DIC株式会社

後援 千葉県／千葉県教育委員会／佐倉市／佐倉市教育委員会

.....<取材および資料請求のお問い合わせ>.....

DIC川村記念美術館 tel. 043-498-2672(掲載用0120-498-130) / fax. 043-498-2139

広報担当 林里絵子 rieko-hayashi@ma.dic.co.jp 宗悦科 etsuka-sou@ma.dic.co.jp

学芸担当 鈴木尊志 takasi-suzuki@ma.dic.co.jp (フランク・ステラ・ルーム)

横山由紀子 yukiko-yokoyama@ma.dic.co.jp (エーリヒ・ブラウアー《ソロモンの箴言より》)

前田希世子 kiyoko-maeda@ma.dic.co.jp (絵画の時間)

1 フランク・ステラ・ルーム

大型作品 16 点一挙公開ーアメリカの巨匠フランク・ステラの見た夢

当館を代表するアメリカの現代作家、フランク・ステラの大型作品 16 点をご紹介します。フランク・ステラ (1936-) はプリンストン大学で美術史を学ぶ傍ら、ウィリアム・サイツなどから絵画を学び、本格的に画家を志します。当初はロスコやゴッドリーブなどの抽象表現主義の影響を受けながら制作を続けるとともに、ニューヨーク市内の美術館や画廊に頻りに足を運び自己の絵画スタイルを模索していました。この頃、レオ・キャストリ画廊で初めてジャスパー・ジョーンズの《旗》と《標的》を見て新たな方向性を直観したステラはそれまでのスタイルを捨て、新たに最小限の色彩と幾何学的構成からなる連作、〈ブラック・シリーズ〉を制作し、ニューヨーク近代美術館の学芸員ドロシー・ミラーによる企画展「Sixteen Americans」に 23 歳の若さで出品しアメリカの美術界に衝撃を与えました。

この後、ステラは「絵画として意図されたオブジェ」の可能性に着目し、変形のキャンバス「支持体」を独自に考案し、幾何学的構成による色彩豊かな絵画を展開します。さらに、画面上の「図」と「地」の関係を完全に分離させた金属製の大型レリーフへとそのスタイルを大胆に進展させ、名実ともに現代を代表する美術家として多くの美術館に作品が収蔵され、たくさんの展覧会が各国で開催されてきました。77 歳を迎えた現在も、建築的要素を取り込んだ新たな作品を制作しています。

世界的にも有数な当館のステラ・コレクションの特徴は、初期の〈ブラック・シリーズ〉を代表する《トムリンソン・コート・パーク(第2ヴァージョン)》(1959) から、独立した立体作品ともいえる《セコイア》(1991) までの約 35 年間にわたる制作の流れを一望に展観できるところにあるといえるでしょう。



フランク・ステラ 《ヒラクラⅢ》 1968 年
© Frank Stella / ARS, New York / JASPAR, Tokyo, 2013 D0255



フランク・ステラ
《メリー・クリスマス 3X (第3ヴァージョン)》 1987 年
© Frank Stella / ARS, New York / JASPAR, Tokyo,
2013 D0255

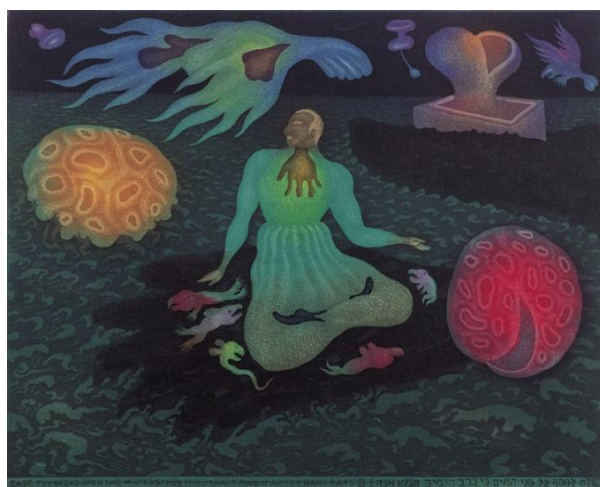
2 エーリヒ・ブラウアー 《ソロモンの箴言より》

ウィーンのマジック、エーリヒ・ブラウアーの描く幻想の光景

エーリヒ・ブラウアー(1929年-)はウィーン幻想派を代表する画家のひとりとして知られています。《ソロモンの箴言より》(1970-71年)は、旧約聖書の「箴言」から抜粋したテキストをもとに制作された12枚の連作版画です。人間の愚かな行いを戒め、人生の知恵を授けるものとして伝えられてきた「箴言」の言葉を、ブラウアーは現実と夢の交錯する不思議な光景に描き出しました。本展では、当館初公開となる《ソロモンの箴言より》12点および聖書に関連した3点の作品をご紹介します。



エーリヒ・ブラウアー 《ソロモンの箴言より》1970-71年 © Erich Brauer



エーリヒ・ブラウアー 《ソロモンの箴言より》1970-71年 © Erich Brauer

(左) 〈愚か者に囲まれた支配者の叫び声よりも、智恵者が語る静かな言葉に人は耳を傾ける。〉

(右) 〈あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出すだろう。〉

《ソロモンの箴言より》の画面にはアメーバやクラゲを思わせる物体が浮遊したり、人物の身体と交わったりしています。その色彩は熟した果実のように濃密で、自ら発光するかのような輝きを伴っており、絶え間なく流動する生命体のようなようです。こうした描写は、人が心の奥底に抱える不安や悪夢を掘り起こすように感じられますが、同時にブラウアーの画面は現実を超えた不思議な世界へと私たちを導きます。画面は静寂に満たされており、暴力的でグロテスクな描写と、近未来的なヴィジョン、幻想性、ユーモアが交錯し、その深い夢の中で「箴言」の言葉が繰り返し低く響くように感じられるでしょう。

ブラウアーは美術の道を歩み始めた頃に北アフリカやイスラエルなど各地を放浪し、時には音楽やダンスで稼ぎながら滞在を続ける日々を送りました。またヨーロッパの絵画伝統によらず、インドやペルシャの細密画法を取り入れています。ブラウアーの作品の魅力は、ユダヤの家系に生まれ育った自らのルーツと信仰、芸術都市ウィーンという環境、各地を放浪し多様な風土や文化を吸収した経験、そして類い稀な想像力が結合して生み出されたと言えるでしょう。

エーリヒ・ブラウアー Erich Brauer (Arik Brauer) 略歴

1929年1月4日、ウィーンに生まれる。リトアニアからの移民でユダヤ系の父は靴職人。少年期にナチスによるユダヤ人迫害や強制労働を体験。1945年にウィーン美術アカデミーに入学、翌年よりギューター・スローに師事する(46-51年)。この間(49-53年)、ウィーン市のコンセルヴァトリーで歌唱法を学ぶ。1950年代にはフランス、スペイン、北アフリカ、ギリシャ、イスラエルを訪れ、各都市に滞在中は歌手・ダンサーとして生活資金を稼いだ。1955年にユダヤ系女性の Neomi Dahabany と結婚、後に Timna、Taliya、Ruth の3人の娘を授かる。結婚と同時期に自身の名をドイツ語のエーリヒ(Erich)からヘブライ語で「神のライオン」を意味するアrik(Arik)に変更。1956年、ウィーンで初めての個展を開催。1960年代から本格的に絵画制作に取り組み、以後パリ、ウィーン、イスラエルを拠点に活動。1960-70年代を通じて、ヨーロッパとアメリカの各地の画廊で作品が紹介された。1965年、サンパウロ・ビエンナーレに出品。1974年、ウィーンのアルベルティーナ絵画館で版画作品による大規模な展覧会が開催され、ヨーロッパ各地を巡回。1979年にはニューヨークのユダヤ美術館で回顧展が開かれた。1980年代以降はウィーンの分離派美術館など国内外の美術館で展覧会が開催され画家としての評価を確立、複数の自著、研究書が出版されている。またブラウアーはミュージシャンとして数々のアルバムをリリースしており、絵画と音楽の両面に渡る彼の活動は21世紀の今日までたゆみなく続いている。

ウィーン幻想派とは

正式な美術史用語ではウィーン幻想的レアリズム派(Wiener Schule des Phantastischen Realismus)と呼ばれ、ウィーン美術学校でギューター・スロー(Albert Paris Gütersloh, 1887-1973)に教えを受けた画家たちと彼らの作品のスタイルを指す言葉です。1948年のアート・クラブ展でデビューした彼らは、1950年代にオーストリア国内で脚光を浴び、1960年代には国際的に注目されるようになりました。その中心的メンバーは、次の5人の画家たちです。

ルドルフ・ハウスナー(Rudolf Hausner, 1914-1995)/ヴォルフガング・フッター(Wolfgang Hutter, 1928-)
アントン・レームデン(Anton Lehmden, 1929-)/エーリヒ・ブラウアー(Erich Brauer, 1929-)
エルンスト・フックス(Ernst Fuchs, 1930-)

使用されるモチーフや画面構成は画家によって異なりますが、多くの作品において深く鮮やかな色彩が用いられ、細密な描写によって夢想と現実が入り交じったような光景が描かれます。それらは世界が滅びた後に出現した「もうひとつの世界」を思わせ、どこか沈鬱で、時には不気味でエロティックな雰囲気漂います。彼らの作品は、20世紀前半から後半にかけて世界に広がったシュルレアリスムの系譜に連なるものですが、そこに見られる諷刺やアイロニー、メランコリックなユーモア、非ヨーロッパ世界に由来するエキゾチックな要素、あからさまな不条理、奇妙な解放感、奔放で濃厚なエネルギーは、第2次世界大戦後のウィーンという都市に生きた画家たちが生み出した独自の表現だと言えるでしょう。

ウィーン幻想派の主な画家たちは 1930 年前後に生まれ、第 2 次世界大戦後の変動する社会の中で芸術家への道を選びました。ナチスによるオーストリアのドイツ併合や、戦勝国によるウィーン分割統治など、母国が激動に揺さぶられる中で、彼らは幼年期から青年期を過ごしています。

美術史美術館をはじめとする数々の美術館があるウィーンでは、中世、ルネサンスから近代に至る優れた芸術作品を見ることができました。とりわけヒエロニムス・ボスやピーテル・ブリューゲル、マニエリスムの作品は、ウィーン幻想派の画家たちに影響を与えたとされています。

ウィーン幻想派の画家たちは、戦争が影を落とした危機の時代を生き抜き、変動する社会の中で希望と不安を抱く人々の内面のヴィジョンを描き出しました。それはクリムトらによって花開いた「ウィーン世紀末」から半世紀を経て、芸術都市ウィーンから生まれ出た挑戦と可能性の芸術と呼ぶことができるかもしれません。

ブラウアーと音楽

ミュージシャンとしても活躍したブラウアーは、1960 年代から数々のアルバム(LP)をリリースし、コンサートにも出演してきました。現在、それらの楽曲は CD、iTunes で聴くことができます(主なアルバムは下記に掲載)。多くの CD ジャケットにはブラウアーの作品が使われており、妻 Neomi や長女 Timna が参加した楽曲もあります。

Arik Brauer, Polydor in Coproduktion mit dem ORF, 1971

Arik & Timna Brauer, *Poesie Mit Krallen*, Joram Harel Management, 1984

Die Brauers, Adam & Eve Studio, 1999

※レコード、CD は Arik Brauer の名で発行されています。

3 絵画の時間

絵画に秘められた線をめぐる旅

初めて眼にする絵画に、眼差しを向け軽やかに鑑賞する。ウィットに富んだ絵との対話は、美術の知識がないと出来ないのでしょうか。何かを知っていれば会話がスムーズに成り立つことは確かですが、会話そのものを楽しむために必ずしも必要というわけではありません。コレクションによる企画展「絵画の時間」は、約 40 点の作品を「線」という要素に注目し、絵画を楽しむひとつの手がかりとして企画されました。難解にみえた作品のユーモラスな表情、つまらないと思われた作品のユニークな部分、見慣れた作品の新たな一面、それらを発見する喜びは、作品を見る私たちの意識と視線をほんの少し変えることで可能となります。あなたの絵画の時間が、いま始まります。

出品予定作家：

荒川修作／ジョルジュ・ブラック／ジャクソン・ポロック／ジャン・デュビュッフェ／李禹煥／モーリス・ルイス／ブリジット・ライリー／山口長男／ロバート・ライマン／高松次郎／飯田善國／サイ・トゥオンブリー／中西夏之 ほか



ブリジット・ライリー 《朝の歌》 1975 年 © Bridget Riley



モーリス・ルイス 《ギメル》 1958 年 © 1958 Morris Louis

会期中のイベント

■フロアレクチャー

8月10日(土)15:00-16:30

講師:八重樫春樹氏(美術史家、元国立西洋美術館学芸課長)

作品と一緒に鑑賞しながら時代背景や作家についてお話いただきます。

当日14:00から館内受付で整理券を配布(一般先着30名/友の会優先予約あり)

■担当学芸員によるギャラリートーク

8月3日(土)、9月7日(土)、10月5日(土)、10月26日(土)、11月16日(土)

14:00-15:30

各企画の担当学芸員が展覧会の解説を行ないます。

予約不要/エントランスホール集合

■ガイドツアー

毎日14:00-15:00(フロアレクチャー、ギャラリートーク開催日を除く)

ガイドスタッフがコレクション展示と企画展をご案内します。

予約不要/エントランスホール集合

■ワークショップ

「アートとあそぶなつやすみ」

8月11日(日)、8月17日(土)、8月18日(日)

会場:庭園内第一休憩所

対象:小学生以上

参加費:小中学生・高校生1,500円、一般2,000円

宝箱の万華鏡づくり、あめ細工体験、作曲&演奏会などを予定しています。(要予約)

詳細はHPをご覧ください。

■ミュージアム・コンサート

朴葵姫(パク・キュヒ) ギター・リサイタル「心に染み渡る“天使のトレモロ”」

9月21日(土) 開場17:45 開演18:00

一般3,000円、小中学生・高校生2,000円、友の会会員2,500円

詳細はHPをご覧ください。